

身近な「キッチン」から未来を考えよう

はじめに

「持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引」(文部科学省国際統括官付日本ユネスコ国内委員会発行、令和3年5月改訂)にある、「ESD 推進のためのカリキュラム・デザイン」の視点から、本コンテストの活用方法をまとめました。

目的

自分はもちろん、まわりの人々とともにより幸せに暮らし、より長く健康的で豊かに暮らすために何ができるかを、身近にある「キッチン」を題材に考えます。児童一人ひとりが「キッチンを通じて」考え「未来にあったらいいなと思うキッチン」をイラストと文章で表現させることで、児童自身の視点を大切にしながら自ら考える力を養います。

「身近な『キッチン』から未来を考えよう」に関連する教科例と教科および各学年の目標と内容

小学校学習指導要領(平成29年告示) 平成29年3月告示 より抜粋

低学年 生活科

第2章 各教科 第5節 生活

第1 目標 (3)身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

第2 各学年の目標及び内容〔第1学年及び第2学年〕

1.目標 (2)身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切に気付く、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。

2.内容 (2)家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分ができることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。

高学年 家庭科

第2章 各教科 第8節 家庭

第1 目標 (2)日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

第2 各学年の内容〔第5学年及び第6学年〕

1 内容 C 消費生活・環境 次の(1)及び(2)の項目について、課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境を考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。(中略) (2)環境に配慮した生活 ア 自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解すること。イ 環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫すること。

中学年 高学年 総合的な学習の時間

第5章 総合的な学習の時間

第1 目標 (2)実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

第2 各学校において定める目標及び内容

3 各学校において定める目標及び内容の取扱い (5)目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。

低学年 中学年 高学年 図画工作科

第2章 各教科 第7節 図画工作

第1 目標 (3)つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 目標 (3)楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。

〔第3学年及び第4学年〕

1 目標 (3)進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

〔第5学年及び第6学年〕

1 目標 (3)主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

指導にあたって

「キッチン」「イラストを描く」という、児童にとって身近なものを題材とすることで、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、持続可能な社会形成を身体的・精神的・社会的に良い状態に形づくる視点をもって、主体的に学習に取り組む態度を養うことが期待できます。授業のテーマ、家庭学習の素材など幅広い活用が可能です。

*第3回の審査や表彰式の様子はこちらをご覧ください。



本資料活用のポイント

前提

- 学年、教科(単元)、時間等に合わせ、加筆または省略して実施してください。
- 「ねらいの共有」の中で児童の発達段階に合わせてSDGsの解説等を補足します。

活用方法

- 授業で実施する場合=①②を各45分で実施する。※A～Eの時間配分はめやすです。
- 家庭学習の事前指導で使用する場合=A～Eの内容(ポイント)を踏まえて指導する。

配布資料例

- イラストを描く用紙=A4判1枚程度
- 作品貼り付けシート=解説文(200～400文字)を記入する用紙 ※ご案内資料に同梱
- ワークシート=5つのキーワードから未来のキッチンを考える ※ホームページよりダウンロード

ねらいの共有

おうちの人やみんなの毎日をよりよくする「未来にあったらいいなと思うキッチン」について話し合い、自分のアイデアをイラストや文章にしてみんなと共有しましょう。

① 「キッチン」を通して、どんな未来をつかっていきたいかを考える / 45分

A / 今のキッチンについて考えてみましょう。(5～10分)

ねらい キッチンの用途、使用場面、構成要素を確認する。

ポイント グループ等で話し合いながら、多様な視点があることを共有する。

テーマ①… キッチンの役割を考えてみましょう。

テーマ②… おうちの人やあなたはどんなときにキッチンを使うでしょう。

テーマ③… キッチンにないと困るものはなんでしょう。

B / SDGsの17の課題を参考に、未来のキッチンを考えてみましょう。(20分)

ねらい イラストのテーマを決めるにあたっての切り口を確認する。

ポイント 学年、教科(単元)に合わせて、ひとつまたは複数のテーマを選定し、Aと同様に話し合いながら、多様な視点を共有する。

テーマ①… 住み続けられるまちづくり / 地方創生(11) テーマ④… 防災減災 / 災害への備え(13)

テーマ②… 技術革新 / 新しいエネルギーや素材(7・9) テーマ⑤… 栄養やフードロス / 食材・フェアトレード

テーマ③… エコロジー / 節電や節水、安全な水(6・7・11) (10・12・14・15) ※付記した数字は、SDGs17の目標を示しています。

C / 「未来の自分の暮らし方」で解決できることやアイデアを話し合ってみましょう。(20分)

ねらい AとBで共有した多様な視点をグループワークなどで発展させ、テーマを見つける。

ポイント テーマが絞れない班、児童には個別に声をかけ「興味関心」が高いものなどの視点で考えるように促す。

② イラストと解説文をかく / 45分 または 家庭学習

D / 未来のキッチンのイラストを描いてみましょう。(30分)

ねらい 自分の考え、未来に実現したい目標や夢を絵で表現する。

ポイント 児童の発想で自由に描かせる。筆が進まない児童には前時の話し合いを思い出し、興味関心の高いテーマから想像してみるように助言する。

E / 描いたイラストの解説文を書いてみましょう。(15分)

ねらい 描いたイラストについて文章で表現(補足説明)する。

ポイント 作品貼り付けシートを使用し、200～400文字で書かせる。時間が確保できた場合は、イラストおよび解説文を発表させる。